

5. アンケート調査

1) アンケート調査の結果概要

1. 調査対象	檜葉町の町民全世帯（町外に居住する世帯を含む）
2. 調査の目的	「檜葉町地域福祉活動計画」策定に伴う基礎調査（町内の様々な地域課題、福祉課題を明らかにするため）
3. 調査方法	郵送による配布回収 （町の広報に調査票及び返信用封筒を同封して送付、回収）
4. 配布回収期間	令和2年10月1日～10月31日
5. 送付総数	3,600世帯
6. 回収数	566票
7. 回収率	15.7%

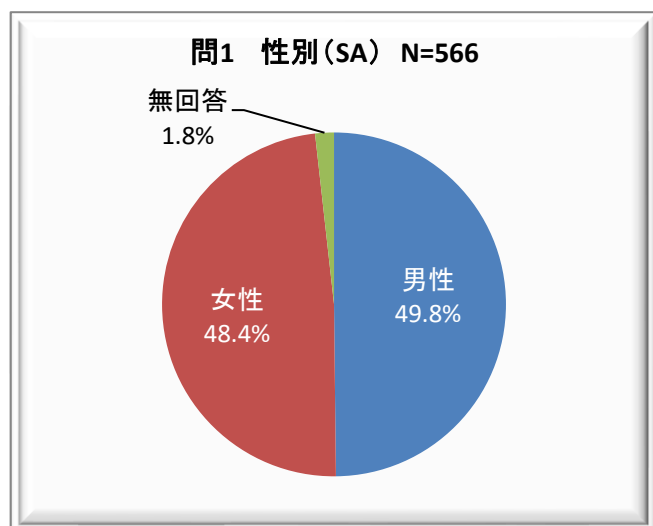
2) アンケート調査結果

【単純集計】

1. 回答者（このアンケートに回答した方）ご自身について

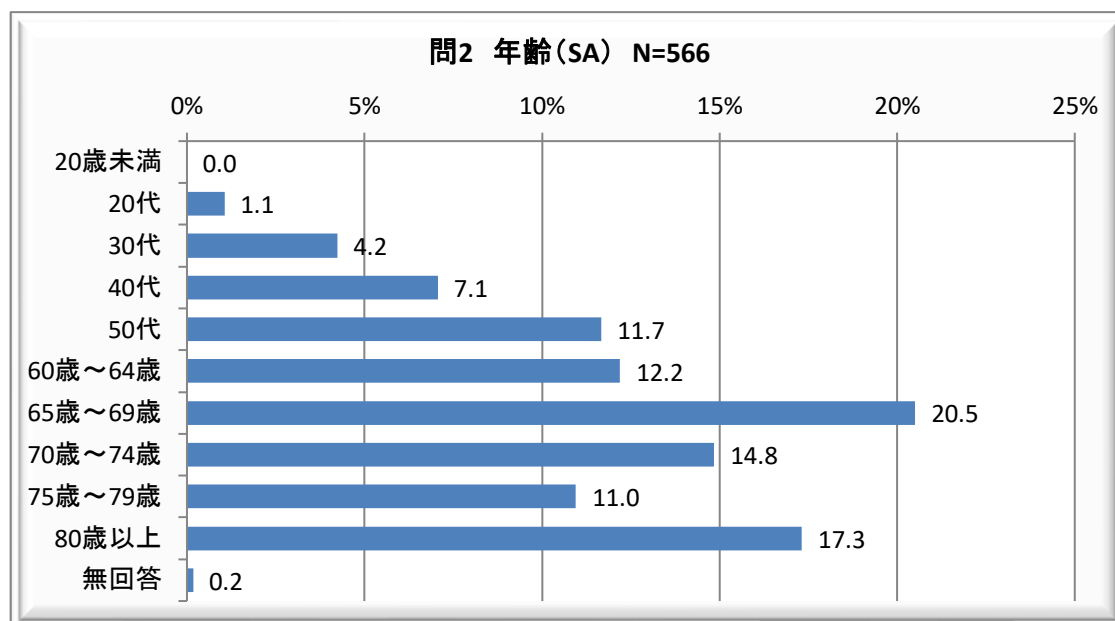
問1 性別

性別は、「男性」が49.8%、「女性」が48.4%とほぼ半々です。



問2 年齢

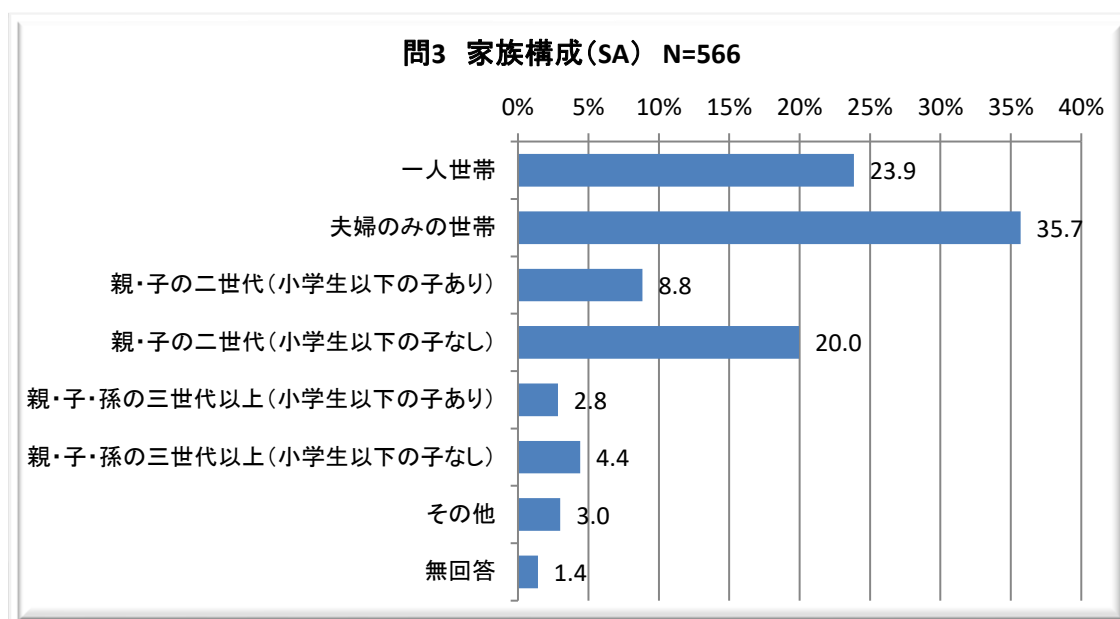
年齢は、「65歳～69歳」が20.5%と最も多く、次いで、「80歳以上」が17.3%となっています。「65歳以上」の割合は、63.6%です。



問3 家族構成

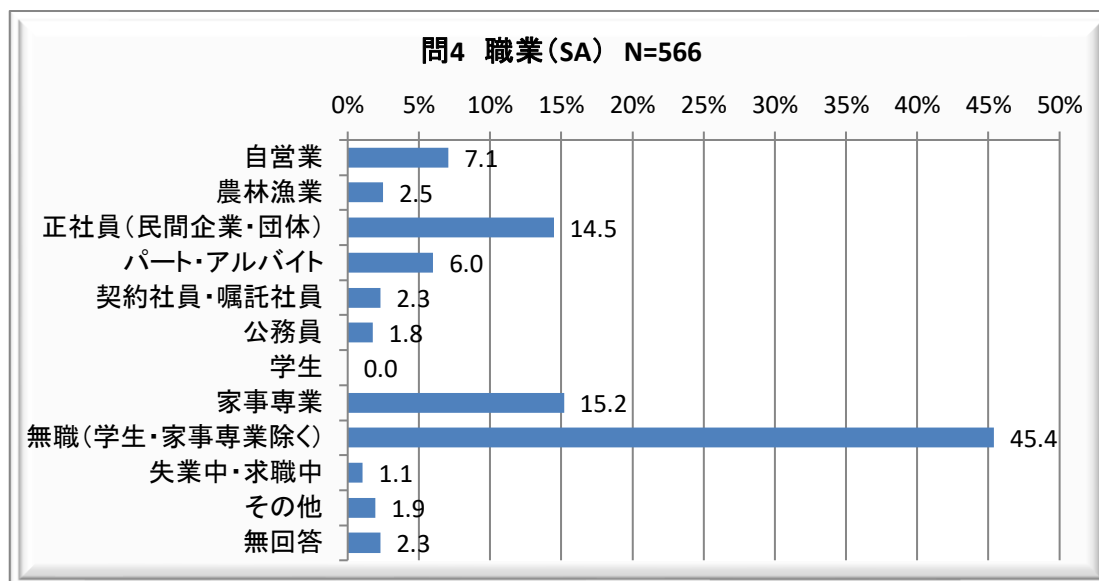
家族構成は、「夫婦のみの世帯」が35.7%と最も多く、次いで、「一人世帯」が23.9%と合わせて約6割を占めます。

「親・子の二世帯世帯」は28.8%、「親・子・孫の三世帯」は7.2%です。多世代世帯において「小学生以下の子がいる世帯」は11.6%、「小学生以下の子がいない世帯」は24.4%です。



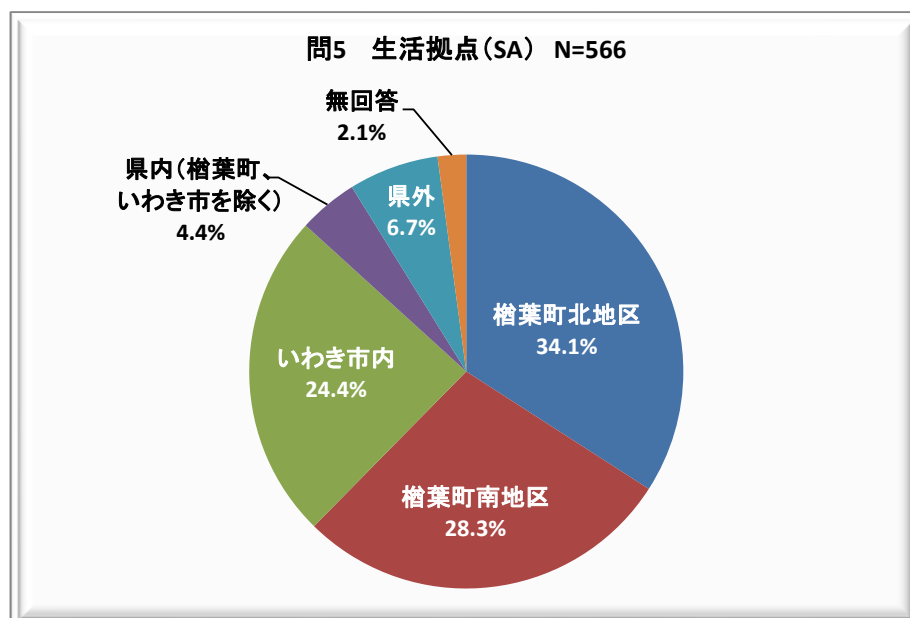
問4 家族構成

職業は、「無職（学生・家事専業を除く）」が45.4%と高い。また、「家事専業」が15.2%、「正社員（民間企業・団体）」が14.5%と続きます。



問5 生活の拠点

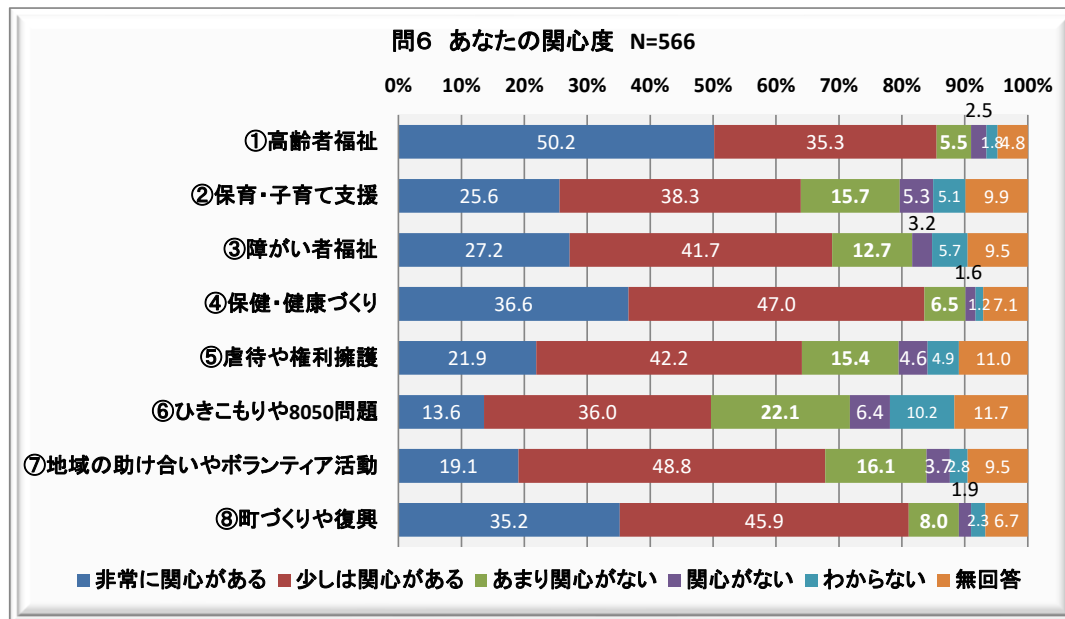
生活の拠点は、「檜葉町北部」が34.1%、「檜葉町南部」が28.3%と檜葉町内が62.4%を占めます。次いで、「いわき市」が24.4%となっており、「県内（檜葉町、いわき市を除く）」と県外”は合わせて11.1%です。



問6 あなたの関心度 (MA)

回答者の関心度合いでは、“関心がある（非常に関心がある＋少しは関心がある）”と回答した項目で最も高いのは「①高齢者福祉」で85.5%、2番目は「④保健・健康づくり」で83.6%、3番目が「⑧町づくりや復興」で81.1%となっています。

逆に、関心度が低い項目（あまり関心がない＋関心がない）は、「⑥ひきこもりや8050問題」で28.5%です。

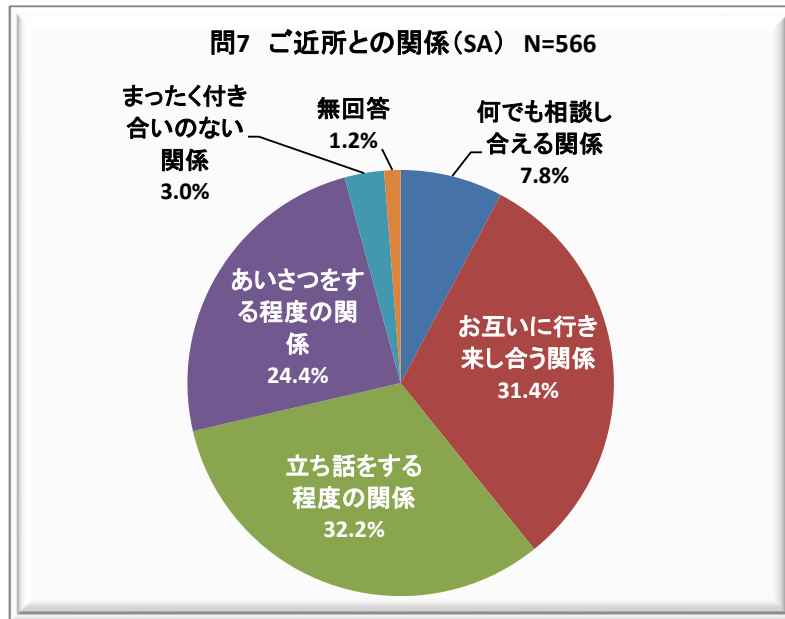


2. ご近所との関りについて(地域活動)

問7 ご近所との関係

近所との関係では、「立ち話をする程度の関係」が32.2%と最も多く、次いで、「お互いに行き来し合う関係」が31.4%、「あいさつをする程度の関係」が24.4%となっています。

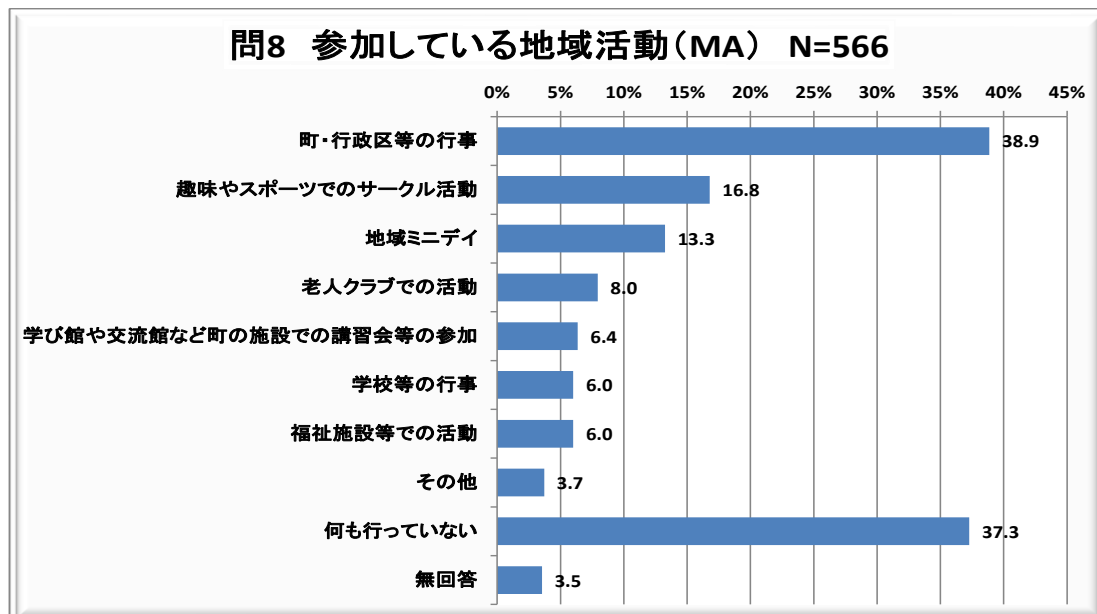
「何でも話し合える関係」は7.8%、「まったく付き合いのない関係」は3.0%となっています。



問8 参加している地域活動

参加している地域活動では、「町・行政区の行事」が38.9%と最も高く、次いで、「趣味やスポーツでのサークル活動」が16.8%、以下、「地域ミニデイ」(13.3%)、「老人クラブでの活動」(8.0%)と続いています。

また、「何も行っていない」との回答は37.3%でした。



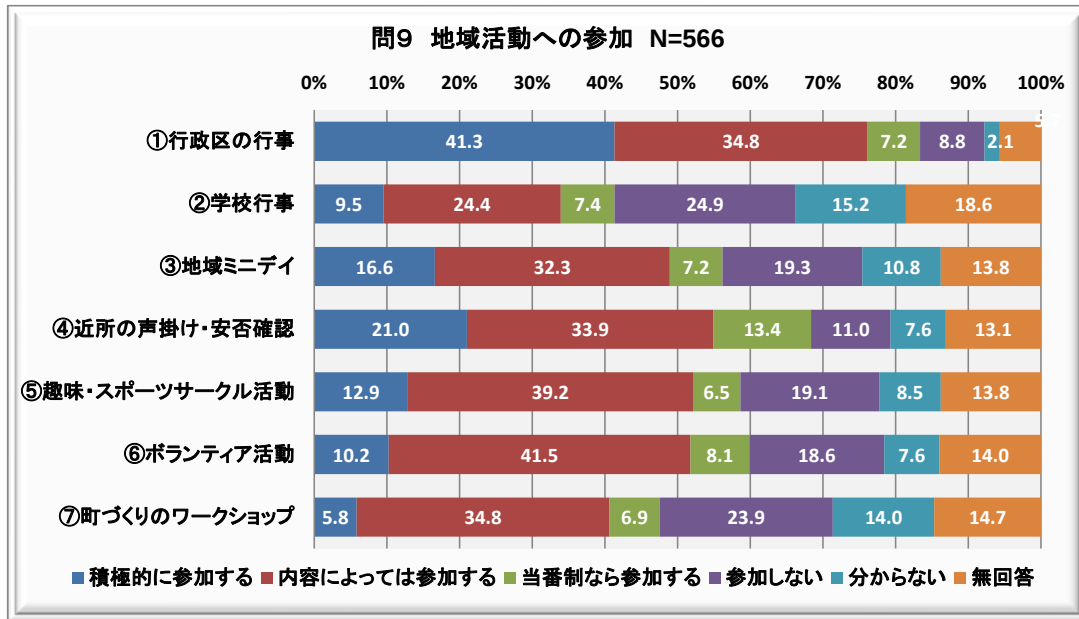
問9 地域活動への参加

地域活動への参加意向で「積極的に参加する」の割合が高いものは、「①行政区の行事」で41.3%と突出しています。

「内容によって参加する」活動は、「⑥ボランティア活動」が41.5%、「⑤趣味・スポーツサークル」が39.2%と高くなっています。

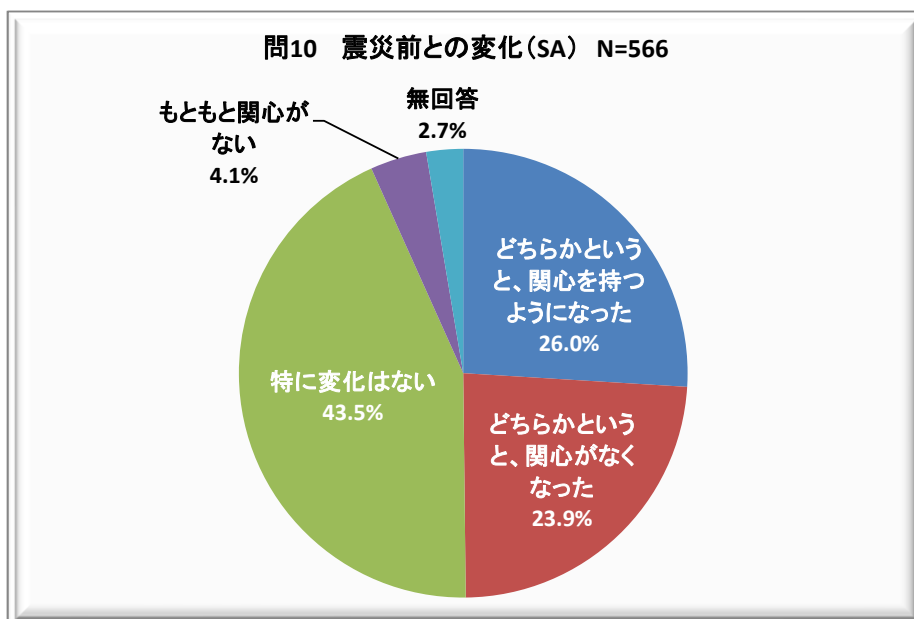
「当番制なら参加する」活動は、「④近所の声掛け・安否確認」が13.4%と高くなっています。

一方、「参加しない」の割合が高い活動は、「②学校行事」で24.9%です。



問10 震災前との変化

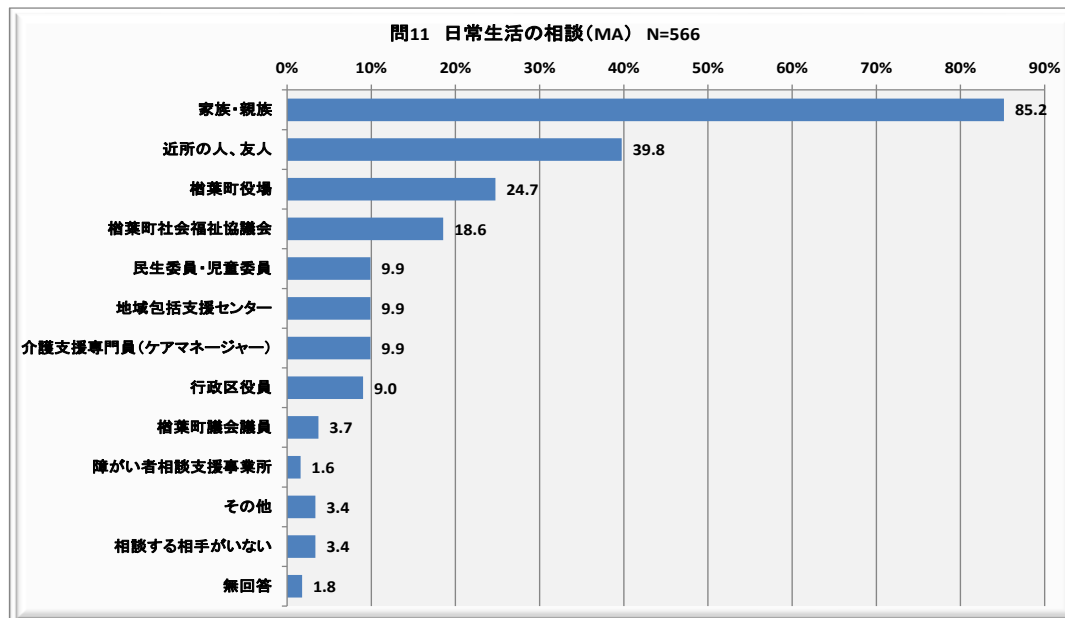
地域の行事や活動における関心度の変化については、「特に変化はない」が43.5%、「どちらかというに関心を持つようになった」が26.0%、「どちらかというに関心がなくなった」が23.9%となっています。



問 11 日常生活の相談（MA）

日常の生活相談は、「家族・親族」が85.2%と最も高くなっています。

2 番目は「近所の人、友人」で39.8%、以下、「檜葉町役場」（24.7%）、「檜葉町社会福祉協議会」（18.6%）、「民生委員・児童委員」、「地域包括支援センター」、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」がともに9.9%と続きます。

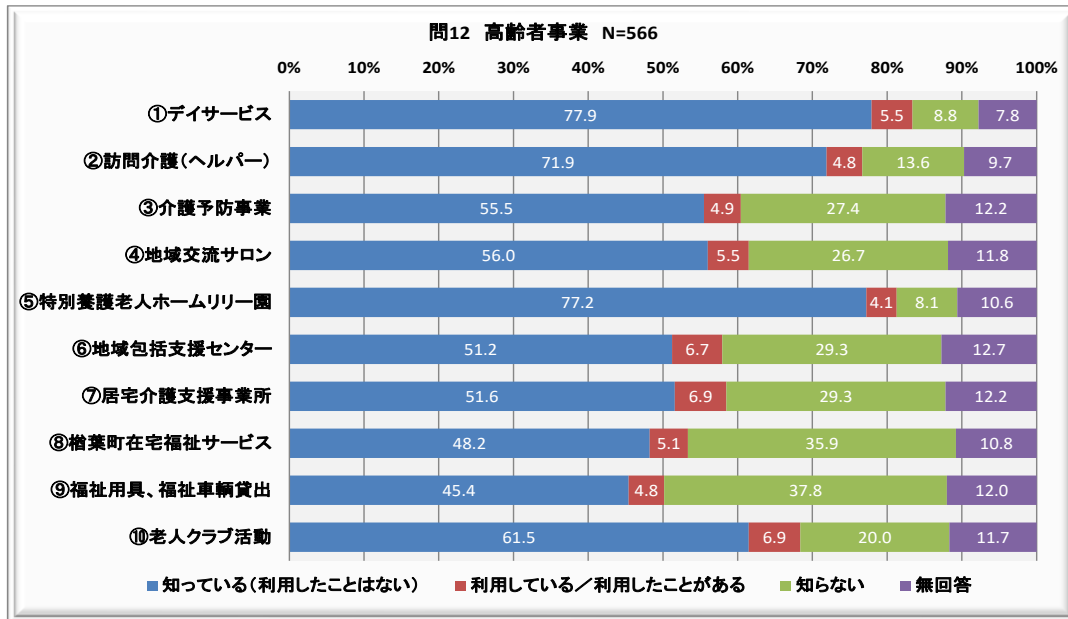


3. 高齢者に関することについて

問 12 高齢者事業

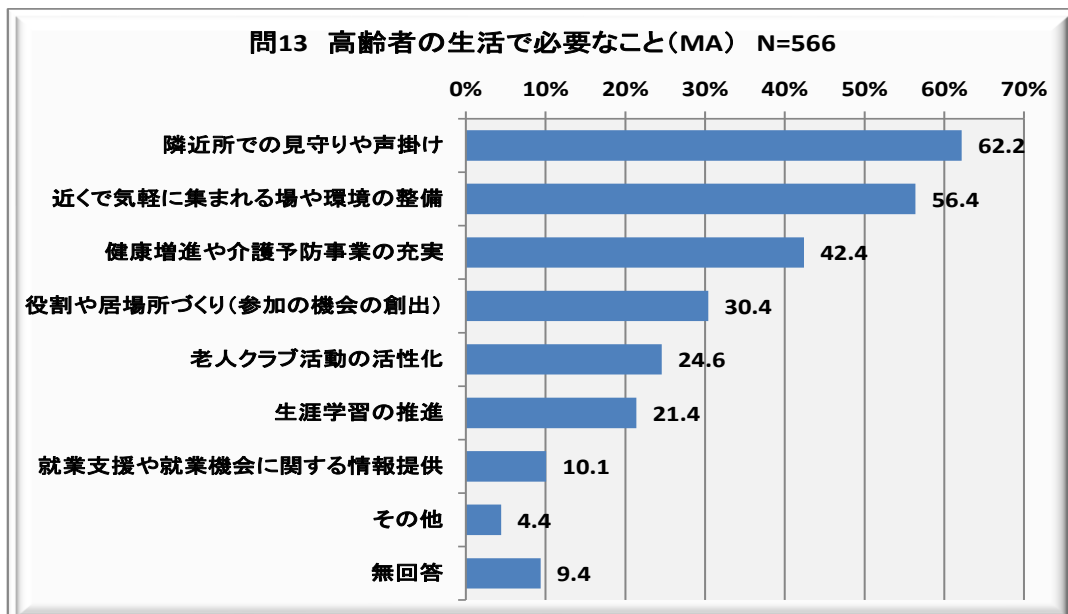
事業の認知度は、知っている（利用したことはない）で、「①デイサービス」（77.9%）、「⑤特別養護老人ホームリリー園」（77.2%）、「②訪問介護（ヘルパー）」（71.9%）の3つが7割を超えています。

一方、知らないと回答した割合では、「⑨福祉用具・福祉車両貸出」（37.8%）と「⑧檜葉町在宅福祉サービス」（35.9%）がいずれも3割を超えています。



問 13 高齢者の生活に必要なこと

高齢者の生活に必要なことでは、「隣近所での見守りや声掛け」が62.2%と最も高く、次いで、「近くで気軽に集まれる場や環境の整備」が56.4%、以下、「健康増進や介護予防事業の充実」(42.4%)、「役割や居場所づくり(参加の機会の創出)」(30.4%)と続いています。

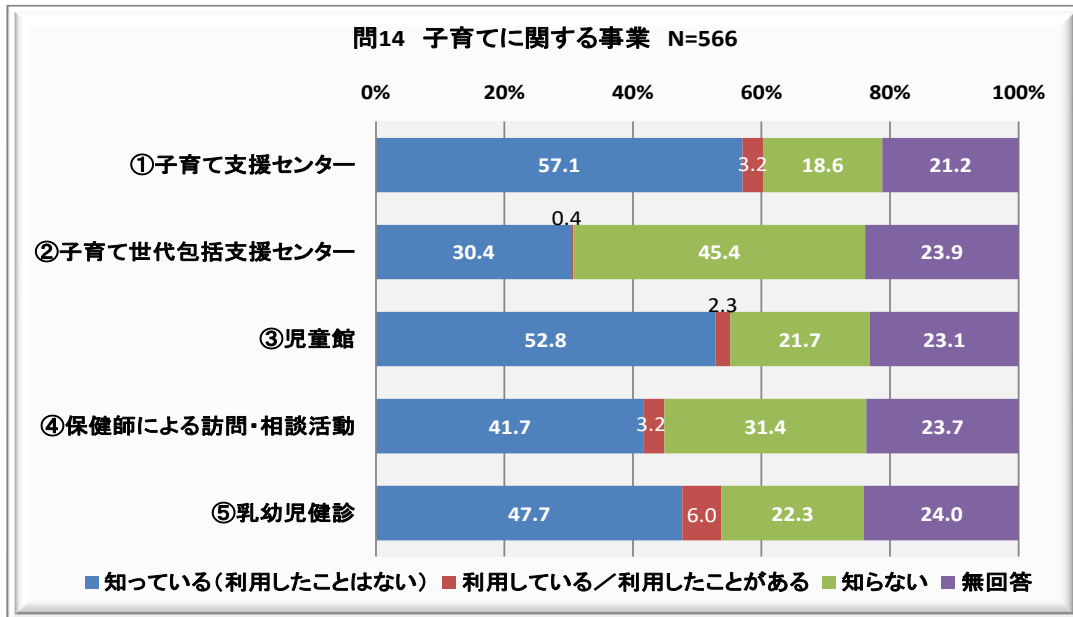


4. 子育てに関すること

問 14 子育てに関する事業

子育てに関する事業で、知っている（利用したことは無い）の割合が高い事業は、「①子育て支援センター」（57.1）と「③児童館」（52.8%）が半数を超えています。

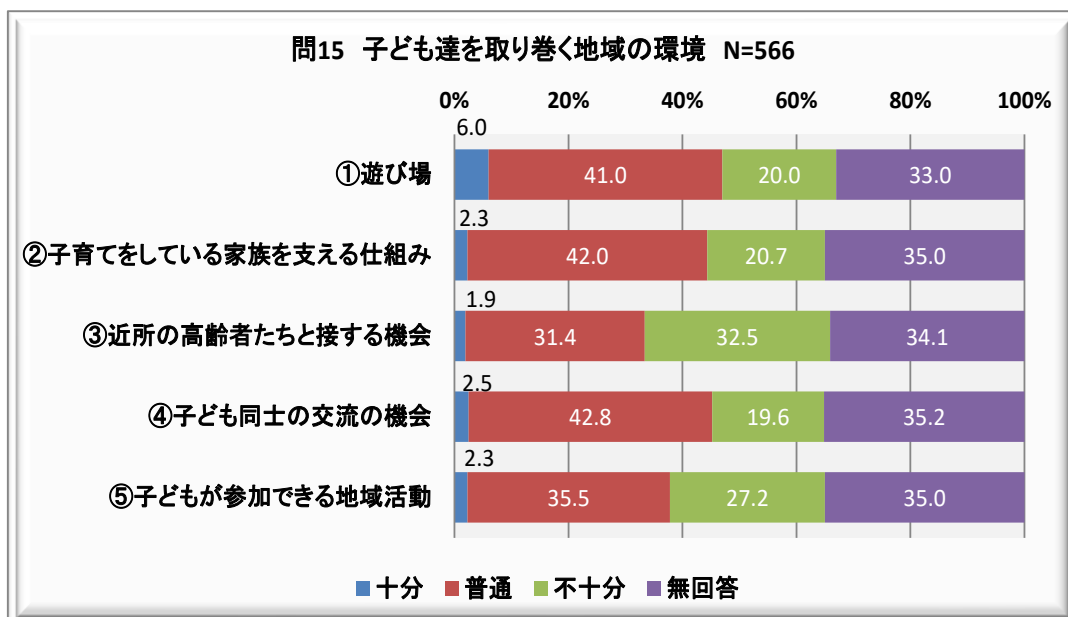
逆に、知らない割合が高い事業は、「子育て世代包括支援センター」で 45.4% です。



問 15 子ども達を取り巻く地域の環境

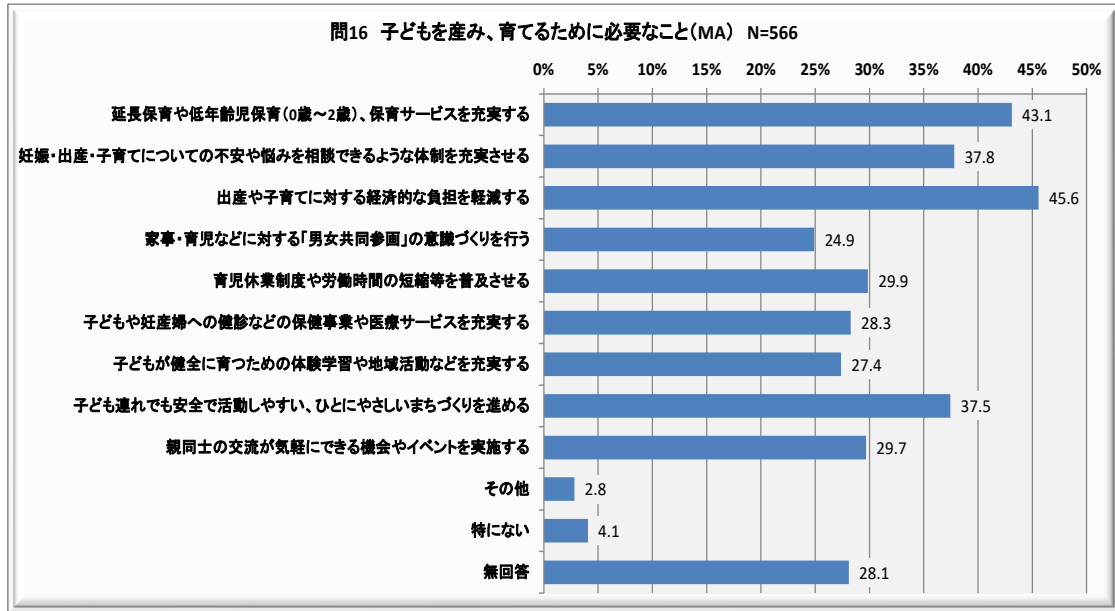
子ども達を取り巻く環境について、概ね3～4割が「十分」「普通」と回答しています。

不十分の割合が高いものは、「③近所の高齢者たちと接する機会」が 32.5%、次いで、「子どもが参加できる地域活動」が 27.2%です。



問 16 子どもを産み、育てるために必要なこと

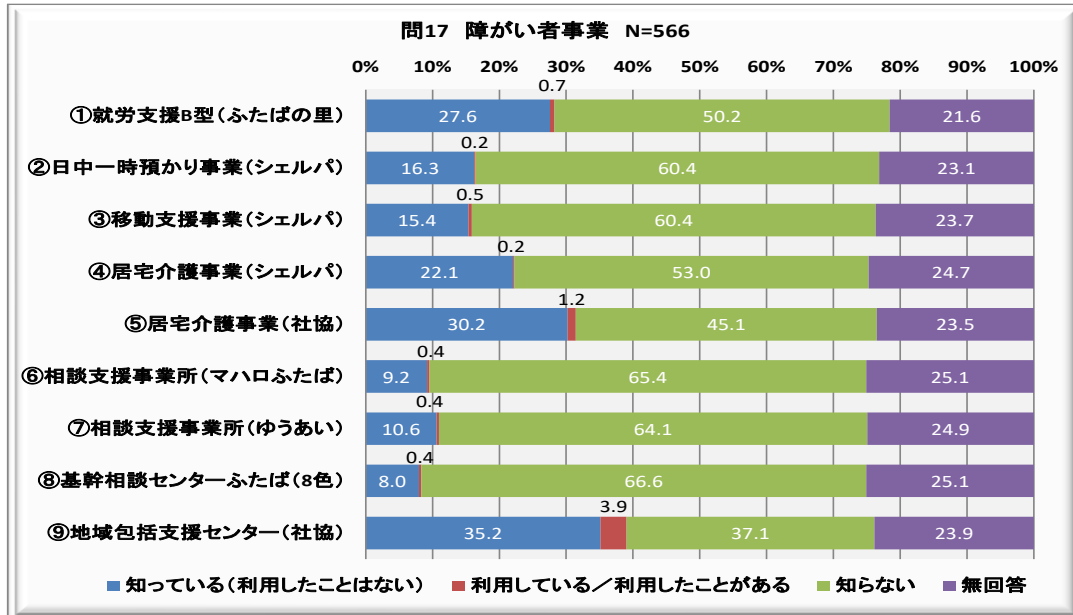
安心して子どもを産み、育てるために必要なことでは、「出産や子育てに対する経済的な負担を軽減する」が45.6%と最も高く、次いで、「延長保育や低年齢児保育（0歳～2歳）、保育サービスを充実する」が43.1%、以下、「妊娠・出産・子育てについての不安や悩みを相談できるような体制を充実させる」（37.8%）、「子ども連れでも安全で活動しやすい、ひとにやさしいまちづくりを進める」（37.5%）と続きます。



5. 障がいに関することについて

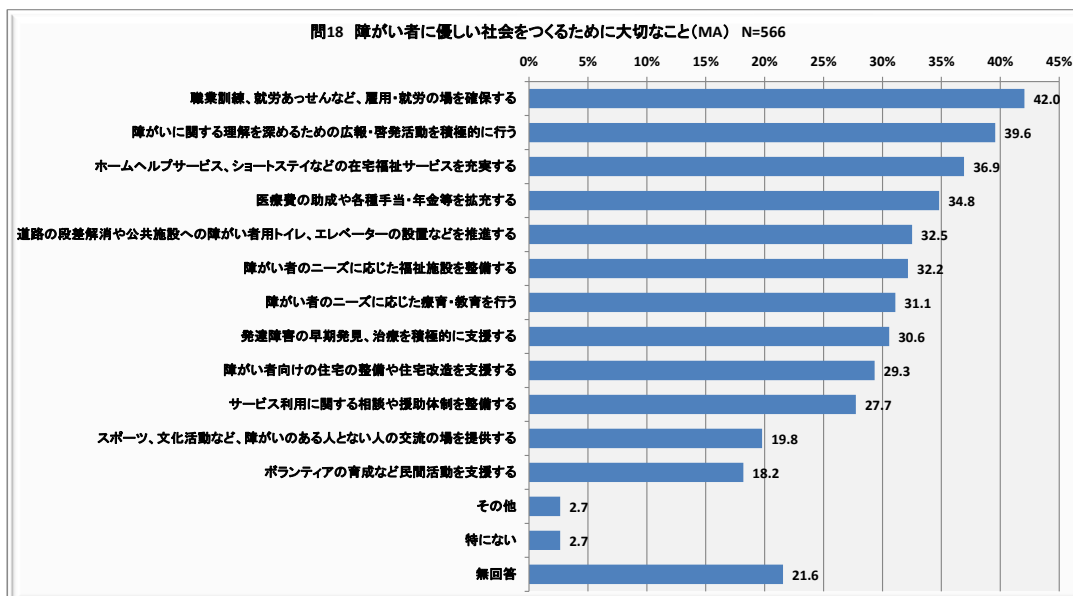
問 17 障がい者事業

障がい者事業において、「知っている（利用したことは無い）」の割合が高いものは、「⑨地域包括支援センター」で35.2%、次いで、「⑤居宅介護事業」が30.2%、以下、「①就労支援B型」（27.6%）、「④居宅介護事業（シェルパ）」（21.1%）と続いています。



問 18 障がい者にやさしい社会をつくるために大切なこと

障がい者に優しい社会を作るために大切なことでは、「職業訓練、就労あっせんなど、雇用・就労の場を確保する」が42.0%と最も高く、次いで、「障がいに関する理解を深めるための広報・啓発活動を積極的に行う」が39.6%、以下、「ホームヘルプサービス、ショートステイなどの在宅福祉サービスを充実する」（36.9%）、「医療費の助成や各種手当・年金等を拡充する」（34.8%）と続いています。

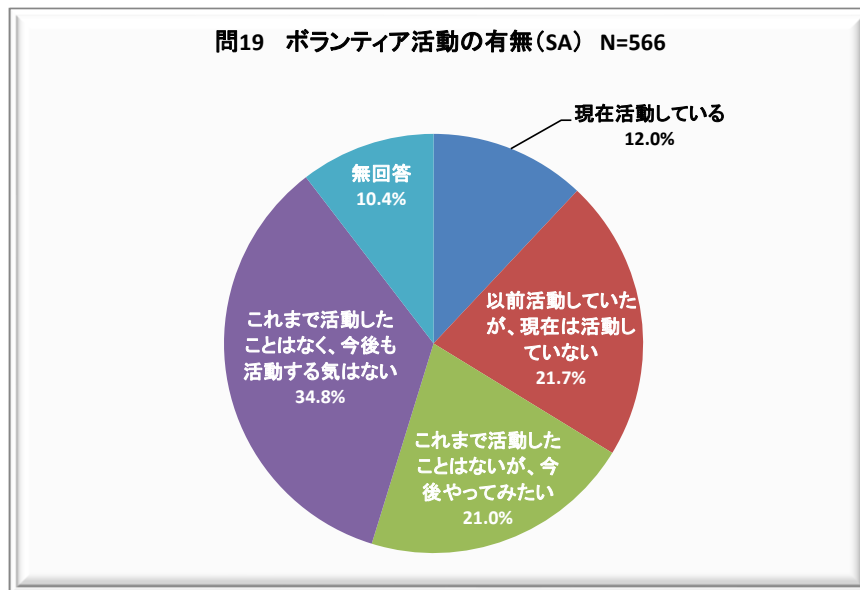


6. ボランティア活動等に関することについて

問 19 ボランティア活動の有無

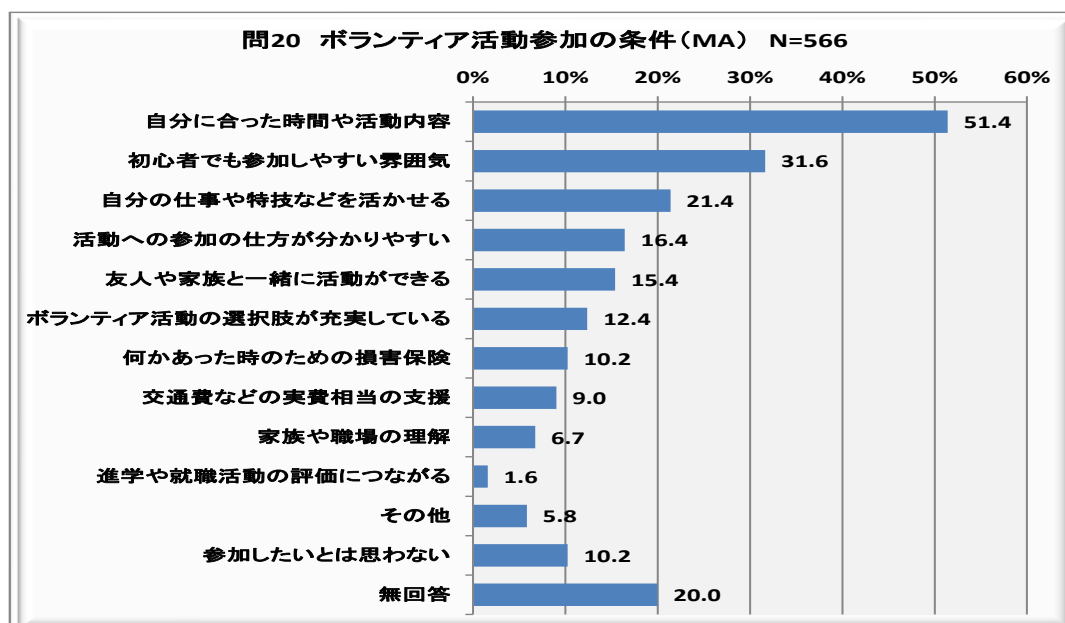
ボランティア活動については、「現在活動している」が12.0%、「以前活動していたが、現在は活動していない」が21.7%と“ボランティア活動経験者”が33.7%です。

「これまで活動したことはないが、今後やってみたい」と回答した人が21.0%、「今まで活動したことはなく、今後も活動する気はない」が34.8%でした。



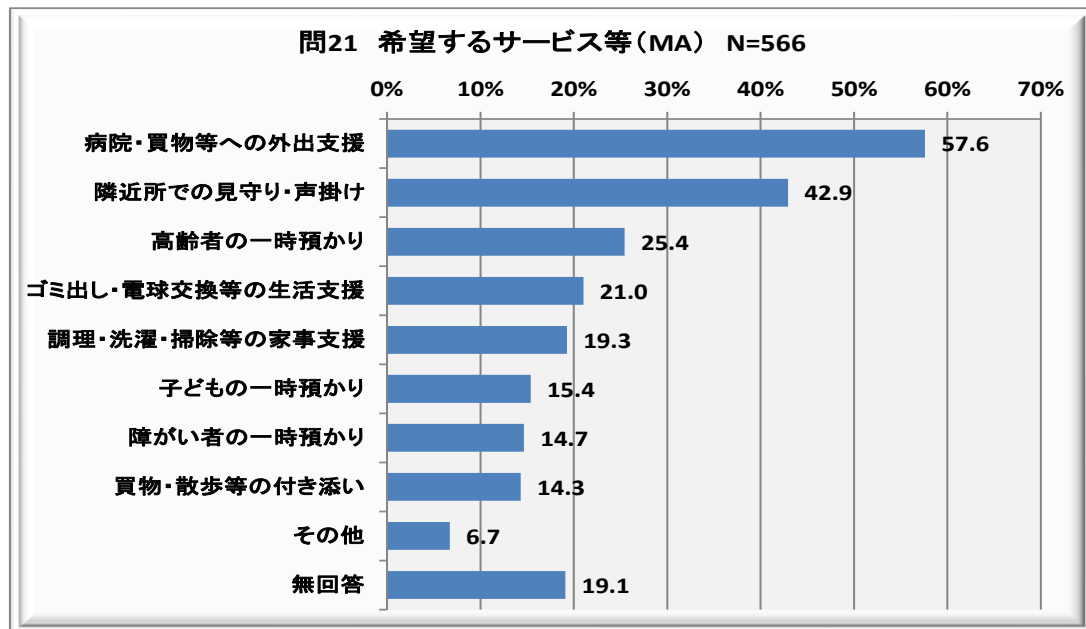
問 20 ボランティア活動参加の条件

ボランティア参加の条件では、「自分に合った時間や活動内容」が51.4%と最も高く、次いで、「初心者でも参加しやすい雰囲気」が31.6%、以下、「自分の仕事や特技などを活かせる」(21.4%)、「活動への参加の仕方が分かりやすい」(16.4%)と続いています。



問 21 希望するサービス等

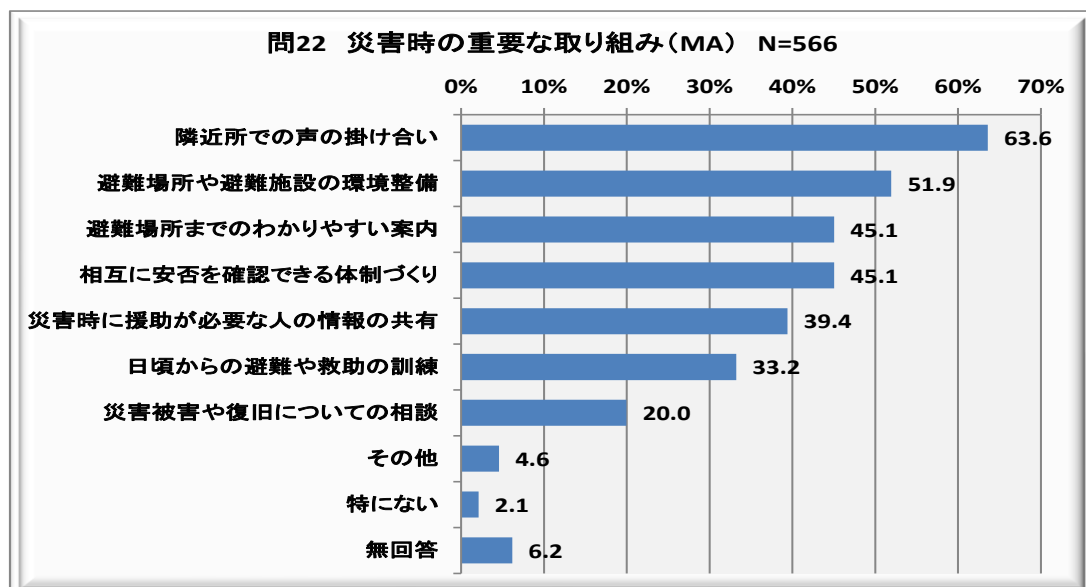
今後、檜葉町で生活していくためのサービスやボランティア活動では、「病院・買物等への外出支援」が57.6%と最も高く、次いで、「隣近所での見守り・声掛け」が42.9%、以下、「高齢者の一時預かり」(25.4%)、「ゴミ出し・電球交換等の生活支援」(21.0%)と続いています。



7. その他について

問 22 災害時の重要な取り組み

災害時の重要な取り組みでは、「隣近所での声の掛け合い」が63.6%と最も高く、次いで、「避難場所や避難施設の環境整備」(51.9%)、以下、「避難場所までのわかりやすい案内」と「相互に安否を確認できる体制づくり」がともに45.1%、「災害時に援助が必要な人の情報の共有」(39.4%)と続いています。



3)自由回答(問 23)

※ カテゴリー項目は、「回答」記述内容より以下通り、項目別に分類してあります。

- ① 高齢者介護 ② 子育て ③ ボランティア ④ 災害
⑤ コミュニティー・まちづくり ⑥ 復興関係 ⑦ 生活全般

① 高齢者支援・高齢者介護

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 なし	・高齢者で一人暮らしの方への訪問。悩みを聞いてあげること。
檜葉北	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・高齢になると身体機能の変化、精神面の変化をひしひしと感じます。相談する人が近くにいればいいが、それがなくては、行政の方に頼るしかありません。困ったことがあったとき、気楽に相談できるよう（助けていただいたことがあります）福祉の活動に期待するものです。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・2人以上暮らしている人はまだ良いが、全くひとり暮らしをしている人が孤独しないようにしてあげることが大切だと思います。
檜葉南	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・これから増々高齢化が進み、皆車で移動が困難になってきます。今はタクシーの補助があるので助かっていますが、長い目でみればもっと経費を節約して、マイクロバスの小回りの出来る車で、一回でも回数を増やして地域を回ってもらえれば助かると思います。
いわき市	女性	50～ 64 歳	子 なし	・高齢になり身体が思うように動かなくなると人との関りが少なくなってしまう為、定期的な訪問等で状況を把握しておくことが必要かと思っています。
いわき市	女性	65～ 74 歳	子 なし	・近所との交流（あいさつしたり、高齢者見守り）。一人で住んでいる家庭は特に注意して見守ってほしい。
いわき市	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・現在いわきに住んでおり、週1回のデイサービスでお世話になっております。檜葉町にお世話になるばかりで何のお役にも立つことが出来ず、申し訳なく思っております。
いわき市	男性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・現在の檜葉町は高齢者が多い。高齢者同士の助け合いには限界がある。若い人の住みたい町にするため、災害住宅の一般（他町村からの人）へ貸出、旧国道（特に竜田側）の整備（拡張）、商店の再開のため、町の補助制度、木戸地区への町営スーパーの整備が必要。プールや保冷倉庫は不要。スーパー、住宅、入院できる場所が必要。 ・たまには「アンケート」するだけでなく結果を出して下さい！

② 子育て

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 日常的に隣近所の交流を密接にして声を掛けたりして様子を確認し合う。 ・ 近所の子供達がいれば常日頃、接触して思い合う。
檜葉南	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 老人 2 人の生活ではなく親・子供・孫と一緒に生活出来るようにすれば良いと思います。当町に戻り、5 年になるが町で遊んでいる子供を見たことがない。それでは町の発展にはないと思う。その他に見ることが出来るのは、イノシシやハクビシンなどの動物だけである。町では建物だけ作っているが人の心を豊かにする行政をしてもらいたい。建物はいらぬ。(特にスカイアリーナはいらぬ。) 図書館を大きく作ってほしいと思っている。
檜葉南	女性	40 代 以下	子 あり	・ もちろん子供たちの不安を取り除き生活をしていくために産科をとかくにつくり人口を増やしていくためにお見合いイベントや金持ち、貧乏の格差を軽減して人生の不安を減らしていくべき。大きい家とか団地とかお互いを支えればうまくいくのに今後の檜葉に必要なのはいわき市民にバカにされないことでもなく、自分自身良人で生きています。一生独身でも平和な生活・人格を否定するな。共に生きづらい時の連絡・相談室を設ける事。

③ ボランティア・地域活動

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 若い人がもっと早く戻って来て、高齢者の手の届かない作業等に地域活動に参加して町をきれいに明るい町づくりに励んでほしい。例として思う。
檜葉北	男性	65～ 74 歳	子 なし	・ 独り暮らしの方(男)を地域活動に参加できる用に ・ 一人一人に焦点を合わせる。話を聞いてあげる。
檜葉北	男性	75 歳 以上	一人 世帯	・ ボランティアを育成し、見守りや支え合いを充実させる。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ 町の奉仕作業に参加することで近隣の方とのつながりを持つこと。
檜葉北	女性	65～ 74 歳	子 なし	・ 私達に出来ると言えば、隣近所で姿が見えないようですが施設入所?それとも入院でもされたのかと心配する前に安否の確認が出来ると安心又は障害者のいる家庭や育児等に悩みを抱えているお母さんへの気楽に出来る体制作りも話を聴く等、民生委員さんは、何度も足を運んでの活動、負担にはならないけれど常々考えさせられます。そこで、同地区内ボランティアして友愛訪問等を通して微々たることですが自分達地域を守って行けたらとも考えます。

檜葉北	女性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・福祉関係や民生委員、隣近所の声かけをし、困っている人の早期発見。 ・各地区集会所では、ミニデイを月に 1～2 回の頻度で行っているが毎週平日の 2～3 日集会所を開放し、サロンの利用してもらったり、皆のつどいの場所を作る。対応ボランティアの募集
檜葉北	女性	50～ 64 歳	一人 世帯	・見守りや支えが必要な方がどこの家の方なのか分からない。親族以外の人に警戒心を持つ人も居ると思う。いざという時に手助けが必要な家に印の様な物が有れば声掛けしやすいし、複数の人が気にかけてくれるのでは?手助けが必要な方から困った時は助けてと発信してくれたらそのお宅にも行きやすい。
いわき市	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ボランティア精神の強化。みかえりを求めない精神、でしゃばらない精神。

④ 災害

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	男性	50～ 64 歳	一人 世帯	・震災において個々の備え（ある程度の）必要だと思う。
檜葉南	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・ハザードマップで自宅の災害リスクを知ることが出来ない。部落でのマップの説明願いたい。 ・マイ避難ノート。

⑤ コミュニティー・まちづくり・生活環境全般

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・一人ひとりが出来る事はできるだけして、本当に困った時は公共でお願いしたい。
檜葉北	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・昔の様な見守りや支え合いでしょうが、現在は核家族が田舎でも進んで来ていて中々難しいのかと考えています。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	一人 世帯	・独り暮らしが多いと思うのでその地域内で動いてくれる方をまとめておく必要が大事ではないかと思っています。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・人のためにできることを自分なりに行動する勇気を人脈、組織が必要と思う。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 なし	・いざと言う時に行動が出来るようには色々な場面に応じた活動・訓練が日頃より必要と思う。
檜葉北	男性	75 歳 以上	子 あり	・集会所でいつも話し合いをすること
檜葉北	女性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・何が必要というよりもいろいろな事で声をかけられたらそのひとの気持ちを受け入れてほしいです。（歳だからと言ってことわられることが多いですね・・・）1人1人がすなお心でたよってほしいです。

檜葉北	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ ささいな情報からの共有。共有する為の他言を除ける。自分だったらと置き換え、困っている人の事を考え、相手を思いやる心が必要「声かけ」
檜葉北	女性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 自分たちが高齢者のため、まず人の世話にならずに健康に注意して正確しなくてはならないと心がけている。ボケないように身体的機能も維持できるようにミニデイ等が各地域で出来て高齢者が自分の足で行けるような近くにあれば良い。集会所(部落)のせめて冷暖房の完備をして欲しい(夏の暑い時等は具合が悪くなりそうだった。)
檜葉北	男性	40 代 以下	子 あり	・ 近所住民との関わり合い。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	子 あり	・ あいさつ程度でも近所の方を知っていれば、イザという時声かけやすかったり、助けを求めたりできると思う。・ パトロールの方であれば、言えに誰がいるか知っていると思います。
檜葉北	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 震災前は役場に行っても知らない人がいなかったが現在は逆に知らない人がほとんど、相手は知ることが安心につながると感じます。
檜葉北	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 例: 要望、元気の目印となるリボンの旗を掲げれば良好。まずは、試してみて決定を○×。
檜葉北	-	75 歳 以上	一人 世帯	・ 年配の人の 1 人暮らしの人が夜屋、身体の調子が悪いと連絡があっても特に夜だと鍵がかかっているとその人の部屋に入る事も出来ずどうすることも出来ない。夜間でも連絡とるには、どこに連絡すれば良いか教えほしい。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 あり	・ 時間という大切なものをいかに有効利用できるかにかかっている。休日というがなんについても考えられないと活動ができない。
檜葉北	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 部落によって誰が居るかいつでも知れるようにしたいと思っている。
檜葉北	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 甘やかさない。できることはやってもらう。しかし、どうしても困っている時には手を差し伸べる。相談出来る事ができるような仕組みが必要と思う。
檜葉北	女性	75 歳 以上	子 なし	・ 常日頃、隣近所仲良く支え合いが大切だと思います。
檜葉北	男性	40 代 以下	子 なし	・ まずは、行政区で話し合いをして町と連携していく。 ・ 行政区で困ったことを言い合える中になるようにふれあいの場を作っていく。
檜葉北	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 行政区や地域での皆が参加できる活動の機会の提供。
檜葉北	女性	40 代 以下	一人 世帯	・ 個人レベル、町一個人(住民)、地域など様々な立場をクロスしたコミュニケーション
檜葉北	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ その人に合ったとりくみを！事情に合った対応し、話を聞いてあげるなど
檜葉北	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 集落、各区長を中心とした部落交流活動

檜葉北	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 生活環境の整理が無理になってきた。人的援助、 シルバー人材等。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	その 他	・ 震災後、地域のコミュニティが壊れ、住む場所も 変わったため、ご近所さんとの関りが薄れました。 その為、昔なら知っていた家族構成すらも今はよく わかりません。まずは、大気のコミュニティの 再構築が必要と考えます。その為には、地域の行 事を通して、まず、ご近所さんと親しくなる、そ の後、見守りや支援が必要な方がいないかという 情報を共有していくことが必要だと思ひます。地 域のリーダー的な人が、見守りの費用な人とサポ ートできる人の橋渡し役になってもらえればと思 ひます。
檜葉北	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 日頃から地域の方々との交流。あいさつや声のか けあい。
檜葉北	女性	40 代 以下	子 なし	・ 地域交流を多く設ける。 ・ 困っている人が「困っている」と言える環境づく り。・ 若い世代が話し合いに参加出来る雰囲気づく り
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 なし	・ 各地区の活動内容、帰還者が少なく大変とは思 うが地域で出来る事は「地域で出来る」「やってら う」「やってみる」等の活動を行政区で自主的に取 り組んでもらうような施策が必要である。
檜葉北	男性	40 代 以下	一人 世帯	・ 休日に地域の人々が集まれるイベント
檜葉北	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 今は檜葉と原町を行ったり来たりしていますが、 1 人で何日も泊まって野菜を作ったりしますが、 福祉の人たちが隣に近所あたりに来た時は一声か けてもらえれば心強く思っています。隣に声をか けている姿を見、素通りされると見放されたよう な気がして寂しくなってしまう。姿をみたら 声掛けをして頂ければ安心感があります。その人 達もいわきから私も同じく言ったり来たりしてい ます。さっきの人たちは誰かと聞くと福祉の人達 (2 人)と同じ立場なのに 1 人暮らしなのにそう いう人達にこそなぜ声掛けをしないのか心の中で 淋しくなりました。これから戻ろうと思ひて 1 人 暮らしになったら本当に心配してしまいます。平 等にして頂きたいです。

檜葉北	女性	50～ 64 歳	子 なし	・人を気にかける。弱い人に手をさしのべる。優しい心、みんなで協力してなどの人間性の構築は幼児教育のころからはじまっていると思います。子供の持つ環境の中で、いろいろな人（年齢・障害者など）との携ることで、自然に身についてくるものなのでは・・・今は、核家族化が多い。子供会議もない（？）地域の伝統文（神社のお祭りなど）もないからよけいにそういう環境作りをしていかないかと・・・まずは、今の私たちが子供たちにお年寄りになる姿を自然に見せられるように心がけたいです。おはよう運動みたいな簡単な声かけからでも小さなつながりができてくるような気がします。
檜葉北	女性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・近くの人が集まれる場所などに顔を出し、人とあいさつ、言葉をかわし、常日頃から人とかわることで、いろいろな情報や知恵も生まれると思う。地下に誰がどんな人が住んでいるのかもわからなければ、助けたくとも助けられないでしょう。まずは、住んでいる人たちの把握と声掛けは大切だと思います。
檜葉北	女性	75 歳 以上	子 なし	・隣近所での声かけ合いが大事だと思います。中溝地区は、「隣は何をする人ぞ」的な人がいます。あいつもしない、気の合った人達は集まっているか孤立している方もいます。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・自宅訪問による個別相談
檜葉北	男性	65～ 74 歳	子 なし	・常日頃の交流により、相互の状況を共に把握しておける。互いに異常時の対策を出来る様、声掛け運動が大事と思う。
檜葉南	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・回覧板をまた初めて隣人同士顔を合わせる。・ゴミ当番、順番決めて、人とのつながる（人まかせにしない）方法を考える。（ゴミステーションに関する問題どこでもあるらしい。）
檜葉南	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・常にどの地域においても隣近所のお互いの声掛けを又見守りを行えば高齢者も力強いと感じます。
檜葉南	女性	65～ 74 歳	その 他	・小さなことでもしっかりと行う事がが必要です。“声掛け”とか言っても孤独死している様では・・・？
檜葉南	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・声掛け合い
檜葉南	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・出来る範囲での個人情報の共有。
檜葉南	女性	50～ 64 歳	子 なし	・やりがいのある人をたくさんだす。・参加してくれる人を応援する。
檜葉南	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・情報の共有
檜葉南	女性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・日頃から隣近所の人達との声の掛け合いが大切だと思っています。
檜葉南	男性	75 歳 以上	一人 世帯	・町会議員は、もっと町民との対話をする事が重要である。町民目線で議会に臨む議員が少ない。

檜葉南	男性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・ お互いの信頼関係
檜葉南	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 心と心のつながり
檜葉南	男性	-	一人 世帯	・ 住民の理解と協力
檜葉南	女性	75 歳 以上	子 なし	・ 地域交流等出てくる人が少ないので声かけして家にこもってないで皆でお話出来る様にしたいです。
檜葉南	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ 4～5 件単位で月に 1 回程度の集まりをもつ（お茶会）。その中で、テーマを一つ一つ話し合っていく。1 回の会合でひとつの課題。その課題は町が提示。防災対策としてどのように声かけにいくかを決める。誰が誰にどの順番で声かけにいくか。
檜葉南	女性	40 代 以下	一人 世帯	・ 地元の住宅の人との交流が声掛け合い、近所の人たちとの交流お年寄りや子供達への関心が大切だと思います。
檜葉南	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 小さなコミュニティから始める。字単位の活動から（区単位では顔も名も分からない人が多い）・テーマ、目的をコミュニティ単位で定めて自主活動を促す。（区長は小さなコミュニティを作る努力する。）・区、町はこれを支援（資金・資材・人材等）行う。 ・ 町区の押し付け活動は控える。困っている人が何を困っているのか何が必要なのか言える目安箱的なものを各「字」単位で設置し、各役場の担当課に分類し、各コミュニティ毎と共に改善活動を図って行く。小さな車輪を回し、大きくしていき、町善意の活動に広げる。
檜葉南	女性	65～ 74 歳	子 なし	・ 日頃から地域におけるやさしい思いやりのあるおつき合いだと思います。
檜葉南	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 交流
いわき市	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 地域住民が集まり、交流できる場所をつくり、高齢者一人暮らしの見守り。
いわき市	女性	65～ 74 歳	子 なし	・ 程良い間隔を持ちながら隣近所に目を配り、接点を持ち、信頼関係が生まれ目用になったら素晴らしいと思う。
いわき市	男性	40 代 以下	一人 世帯	・ 朝と晩は声掛け（あいさつだけでも）して安否確認！・週に 1 度は皆で集まり、お茶会！
いわき市	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 組織作りが第節だと思います。それがきちんとおこなわれているか例えば回覧板の様に班事ごとに責任者がいてチェックすれば、どこの班でこんな事があったなどの情報も？
いわき市	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ 近隣所での声の掛け合い
いわき市	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ 日頃から近所の声の掛け合い。

いわき市	女性	65～ 74 歳	子 なし	・ 声掛け合いが重要かなと思います。
いわき市	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 声掛けを常にする
いわき市	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 隣近所で声をかけやすい環境づくり。地域のリーダーとなる人が各家庭の事情を把握しておく。
県外等	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ 信頼出来る相談者。・ 援助が必要な情報の共有。・ 原発に関しては一生忘れ事の出来ない出来事。心まで傷つけられた。
県外等	女性	65～ 74 歳	その 他	・ 隣近所での声掛け合いが大事と考えます。
県外等	男性	75 歳 以上	子 あり	・ 常日頃の近所を含む人づき合い。

⑥ 復興関係

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	男性	50～ 64 歳	一人 世帯	・ 益々高齢化になっているので国からの予算を確保する。原発事故後の発展を見せる為。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 なし	・ 大震災からこの 10 年間でのびた雑木、大木、竹などの景観のわるい所が増えています。大きな計画だけでなく、目線を下げていただき、我々の資格的風景を考えていただき、極力伐採をお願いします。
県外等	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 人との繋がりが一番大事だと思います。何かあった時に相手の気持ちがわからない場合やまた、わかっているために手やことばを出すのを「ちゅうちょ」することがあるので日頃の人間関係の大切さを感じます。
県外等	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ まだまだ居住する人が少ないですが、地域毎に集まれる取り組みを更に強化して欲しい。特に独り暮らしの方々との触れ合いを・・・。
県外等	女性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・ 人によっては、電話相談などできない人もいますとおもいますので、個別訪問などあるといいと思います。困った解時のネットワークなどがあると助かります。
県外等	男性	75 歳 以上	子 あり	・ 先ず声掛け、つながりを大切にしていきたい。今、自分の国だけ良ければ良い、自分だけが良ければ良い、という風潮があるので助け合って生きるとを若い世代に導いて欲しい。
県外等	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・ 日常的な安否確認
県外等	女性	40 代 以下	夫婦 のみ	・ 困っている（見守り等が必要な人）が身近にいることを知る必要がある。子供、障がい者、高齢者が身内にいないので他人事になりがち
県外等	男性	40 代 以下	一人 世帯	・ 自分の利害だけで判断すると支え合う気持ちを妨げるので、やさしい気持ち、いたわる心が必要と思う。

県外等	男性	65～ 74 歳	子 なし	・地域の輪と地域から町への発声、声掛けが必要と思われる。
県外等	男性	65～ 74 歳	子 なし	・人と人とのつながり。
県外等	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・コミュニティづくりが大切。親しい人、そうでない人、皆が寄り集まってコミュニティをつくり、協力し、支え合う雰囲気大切だと思います。

⑦ その他（行政に対する要望・個人的な考え等）

生活拠点	性別	年齢	世帯	問 23. 自由回答
檜葉北	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・帰還人口（事故前）の 6 割？ 真実ですか！！
檜葉北	男性	65～ 74 歳	一人 世帯	・“若い人の増加”現在の檜葉町は 50 代～70 代が圧倒的。10 年後、20 年後はどうなってしまうのか、行政はそのあたりを考えて計画しているのか？たとえば特老の入所者数は？ 介護士数は？
檜葉北	男性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・若い世代が戻る或いは、檜葉町に住みたいと思う魅力がない。例えば、固定資産税が安いなど町としての何らかの方策が必要では？
檜葉北	女性	75 歳 以上	子 なし	・（どんなことでも）相談できる窓口（又は TEL）を役所に設置してほしい。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 あり	・「人・物・金」と愛情
檜葉北	男性	50～ 64 歳	一人 世帯	・自分の家がほしい。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 なし	・行政区分毎に現在住んでいる人の一覧を作成（把握）し、様々なサービス、情報提供等行える様に希望する。
檜葉北	男性	75 歳 以上	一人 世帯	・コロナの今年からちらちら報道されるようになったがお彼岸時等の清掃や代理墓参り等の有料システム（事由 近親者も高齢遠方になった）・近親者高齢の遠方になって行く事により、お墓を守り維持が困難になっていき、その後の「墓じまい」をどうするかそれらの問題を解決するには、と考える毎日である。予め寺に有料で依頼等もあるがそんな事が可能なものか迷っています。信用して依頼できる機関が欲しい。
檜葉北	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・人材育成が必要と考えます。しくみづくり。
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 あり	・このままのりりくらしと時間がすぎていきます。今、やっていることがはたして正しいことなのか間違っていたのか、30 年後の人たちが評価すると思います。行政、議会は現実の檜葉町の決定したしたことと今の状況と変えるには明日からでも変えないと方向性が変わっていきます。
檜葉北	女性	65～ 74 歳	子 なし	・自分自身が SOS を素直に言えるように心がけたい。

檜葉北	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ おかげ様、おたがい様の心持ち
檜葉北	男性	50～ 64 歳	子 なし	・ 人材を増やすべきだと思います。
檜葉北	男性	65～ 74 歳	一人 世帯	・ 行政区、町社協が中心になり
檜葉北	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 仕事を持たない、中高齢男女の活用を図る。
檜葉北	男性	40 代 以下	一人 世帯	・ なんとなく見守り・支え合いが大切だとわかる。しかし字面の理解はできるが自分事化ができない。まだ自分に関係ない事象。その時分事化が必要。地元の民間の福祉団体（シェルパなど）は、取り組み内容が可視化されていて頑張りが見える。しかし、社協などがはたして何をしているのかさっぱり。
檜葉北	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 肝心な事は行政執行者（町長・副町長・職員）、議会議員、関係機関職員総ぐるみで、取り組みの本気度が如何にあると考えます。その為には、住民が動かなではなく、動く環境をいかにして作っていくかの原動力を前記の立場ある方やプラン・ドゥー・シーを重ねる事で道は地道に前進していくと考えます。町、議員、機関総ぐるみの本気度を理解出来た住民は、今度は住民としての本気度を一人一人が発揮しないはずはなく、将来の檜葉町の姿、形、住民皆々の希望をより高いレベルへと育まれると信じます。生意気なこと書きましたがすいません。
檜葉北	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 高齢者、障害者でもいろんな人の訪問がストレスとなることもあります。
檜葉北	男性	65～ 74 歳	一人 世帯	・ 互いの思いやり
檜葉北	女性	65～ 74 歳	その他	・ 活動充実?何といっても親族、家族がしっかり連携をとるしかないと思います。他人ののれる案件は決まっております。のりすぎでは「ダメ」と自分に言い聞かせて活動をさせてもらっています。
檜葉北	男性	40 代 以下	一人 世帯	・ 充分住民は善意で自ら動いていると思う。帰還から5年が経過し「住民主導の地域作り」と求められているが、「住民の意思を変える」「ボランティアの育成」頼みにせず、行政や公的サービス、資源づくりを仕事、業務として推進する部署の充実が急務だと思う。
檜葉南	男性	65～ 74 歳	子 なし	・ 行政区（長）のあり方を変える事。従来の班はないに等しく（帰町している世帯、帰町していない世帯、歯抜け状態）、形式だけの班長・区長。よって、行政として時代にあった行政のあり方を早々に対応すべき。
檜葉南	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 話題はそれますが、最近何でもスマホ決済とかインターネット申請とか生身のやりとりが減ってわからないことが増えましたよね～世の中便利になっているんだか不便になっているんだか！

檜葉南	男性	75 歳以上	子なし	・福祉の充実を図って下さい。(リリー園等)
檜葉南	男性	50～64 歳	子なし	・当事者の声の収集と定期的な取り組み姿勢。・小さなことでも吸い上げる対応を図る事(個人的なグチは除くが)
檜葉南	男性	75 歳以上	子なし	・人が大切。活動できる人の育成。
檜葉南	女性	50～64 歳	夫婦のみ	・問 22 の 6 は非常に必要だと思います。
檜葉南	男性	65～74 歳	子なし	・各行政区分での帰町世帯の確認をし、その住民の集会等を開き、交流のきっかけをまずは作ることから始める。まずはきっかけ作り。
檜葉南	女性	65～74 歳	子なし	・衣料品店が欲しいです。・眼科・耳鼻科・皮膚科などの病衣が欲しいです。・各道路の亀裂を
檜葉南	女性	50～64 歳	夫婦のみ	・最近、「見守りたい」の車が見たことがないです。
檜葉南	女性	50～64 歳	夫婦のみ	・道路のデコボコを直してほしい。・車や自転車で通る人が危ないから。
檜葉南	女性	40 代以下	子あり	・道路の白線が消えそうな場所はしっかり書いて欲しい。 ・道が Y 字になっているところは鏡をつけて欲しい。 ・駅に傘立てがあって欲しい。 ・へこんだ道には砂利かコンクリートを敷いて欲しい。 ・町民が集まる場所(駅)などに花や樹木を植えてあったら華やかになると思う。
檜葉南	女性	75 歳以上	一人世帯	・夫々の団体で福祉に関する項目はかかげられているが、それを実践するための具体策をひとつひとつかけ、それをクリアしたらそれを広報等にて町民に周知していければ町民の自覚も少しは違ってくるのではないのでしょうか。
檜葉南	男性	65～74 歳	子なし	・行政にはまったく期待していない。何をたのんでも返事だけはいいい！
檜葉南	男性	40 代以下	一人世帯	・行政の努力
檜葉南	-	75 歳以上	夫婦のみ	・年と共にだんだん不安があります。檜葉町では人がずいぶん足りないと思います。ですから町に余り心配をかけないように日々改善して生活をしています。老人二人がんばります。
檜葉南	-	75 歳以上	一人世帯	・問 22 3. 相互に安否を確認出来る体制づくり
檜葉南	女性	65～74 歳	子なし	・私もですが恥ずかしい自分には出来ないと言う気持ちを切り替えて、自分から仲間に入る勇気が必要かなあと思う。
檜葉南	男性	65～74 歳	夫婦のみ	・行政記に毎年計上している予算を増やして欲しい。それによって行政にお願いできない物(小物等)を整え充実した内容で住民に対応できる。

檜葉南	女性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ ならば広報を各自宅ポストに入れられている現状を以前の回覧板で廻すような仕組みに戻して、隣人とふれ合う機会を復活させる方向にもっていったほしい。
檜葉南	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ サービス介助士などの口を持つ人が増え、街中や店などで困っている人が気軽に介助（車イスの介助や杖の方の歩行の介助）をお願い出来ると生活がしやすいのでは。
檜葉南	女性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 震災後行政区の活動が少なく隣近所でもあまり顔を合わせる機会が少ないのがさみしい。もう少し行政単位で実施出来る行事があれば良いと思う。
いわき市	女性	40 代 以下	子 あり	・ 当番制にして見守りを強化する。
いわき市	女性	50～ 64 歳	子 あり	・ 1 人 1 人が孤立しないような生活環境を常に作られている様な状況下で元で暮らせる町づくりにしてもらいたい。
いわき市	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・ 気楽に相談できる環境づくり。 ・ 例えば、民生委員、行政区（長）、パトロール隊（中身の見直し）。 ・ 個人のプライバシーには十分配慮する。・ 情報共有
いわき市	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 役場の協力
いわき市	女性	65～ 74 歳	子 なし	・ 町内にいないために何にも参加していない。このようなこと（家族がバラバラになるようなこと）二度とおきてほしくない。
いわき市	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 国、県、市町村の支援、援助。
いわき市	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 関係機関からの要請に基づく活動も大切であるが地域住民から自然に盛り上がりから活動に結んでいくような体制雰囲気作りが重要かと考えます。その結果、末永い活動に繋がっていくように思います。
いわき市	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・ 相手に寄り添うことがとても大切と考えます。その人らしさの生活を大事にサポートがひつわうなら関り、とことん付き合う気持ちがとても重要なことと考えています。
いわき市	男性	50～ 64 歳	子 なし	・ 地方自治体（市・町・村）が率先垂範し、行政区長がリーダーシップをとり、消防団員の方々、個人経営者の方々をはじめ、老若男女すべての方が出来る様にそれらの取り組みに参画できるような方策・体制を作っていく考えもあると思う。
いわき市	女性	50～ 64 歳	その 他	・ さまざまな活動を実施させるためには、支援や援助する上で人員の確保が必要不可欠であると考えます。
いわき市	男性	50～ 64 歳	子 あり	・ 家での行をやりたいです。
いわき市	女性	65～ 74 歳	子 あり	・ 人とのかわり、いつでも気楽に相談できる場所があること。

いわき市	女性	65～ 74 歳	子 あり	・元の町にはいろいろな家族生活の中で帰る人、帰れない人、間に入って悩んでいる人が沢山いると思います。時々帰っても車に慣れないので電車、いわき駅は7時と9時30分、掃除も出来る時間なく、かえって来ます。泊まる事も良いのですが今の自分には体力的、精神的に減入る面があり、夫婦の溝も益々深くなっていきます。電話料金もばかにならないし、話し合える人がいれば胸の内を聞いていただければ少しは楽になれるのかな～と思います。自分の事ばかりで申し訳ありませんでした。
いわき市	女性	40 代 以下	子 あり	・個人の日頃のお付き合いから相手を思いやる気持ち。一人一人が日頃から心がければ自然と助け合う気持ち、心が出るのかな？頼る一方だけじゃなく、頼られる人になれるように自分に努力も必要かと思う。ぬくぬくした環境に慣れてしまっているのも良いのか悪いのか・・・と思います。
いわき市	女性	50～ 64 歳	一人 世帯	・困っていてもご自身から言い出せない方や人との交流が苦手な方なれなれしくしない関係も大切かと思う。何も大切でしょうが、それ以外に離れながらしっかり見守るが必要だと思う。(一生懸命な人材)
いわき市	男性	50～ 64 歳	夫婦 のみ	・言い出しやすい仕組みづくり
いわき市	女性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・できる範囲で、お役に立ちたいと思っている方は多いと思いますが、どのように、何をしたらいいかわからないので、積極的にならないというのが実情では。私自身は、まず自分が迷惑をかけないように、心身ともにきたえていくことを心がけています。
いわき市	男性	40 代 以下	子 あり	・核のごみは櫛葉へ。他県の歴史豊かな土地を汚すな！この先戻ることはないのだから税金使うな！意地でも生きていきたいのなら他力本願はやめろ！
いわき市	女性	75 歳 以上	子 なし	・それぞれの生活が表面に出ない様、お互いまわりに気をつけ助け合える様に心がける事。又相談しやすい行政や隣近につくれる様、それぞれ個人も心掛け、助け合える心身的精神を普段から心がけ歩める人生を！
いわき市	女性	65～ 74 歳	一人 世帯	・新聞配達をしている方や郵便配達の方等に地域見守りをお願いする。新聞や郵便物がたまっている時に通院してもらえば早く何があったかわかる様に地域に責任者を決めておき、それを配達の方達に教えて常に見守ってもらう様にする。
いわき市	男性	75 歳 以上	夫婦 のみ	・社協のスタッフを今より増やした方が良い。
いわき市	女性	40 代 以下	子 なし	・信頼関係築く事

県外等	女性	50～ 64 歳	子 なし	・ 人の心を思いやる想像力！それがあれば言葉も選んで話せる。※形だけ福祉の組織があっても一人一人の認識がないと相手をきずつけてします。
県外等	男性	65～ 74 歳	夫婦 のみ	・ 地域における話し合いの場の充実
県外等	男性	50～ 64 歳	一人 世帯	・ 原発事故は人災です！国/東電は永久的に補償・賠償です。福島県は国にもっと言うべきだ。
県外等	男性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 思いやり、感謝。
県外等	女性	75 歳 以上	一人 世帯	・ 難しくて・・・
県外等	女性	40 代 以下	一人 世帯	・ 日頃 1 人世帯の人への声掛け等を行い、困った時に頼りやすい環境を整えておくこと。毎日でなくとも週に 1 度くらいは安否を見て回る事。
県外等	男性	50～ 64 歳	子 なし	・ 社会福祉活動の一環として行政の関わり方を重要視します。補助や協力が継続的に得られる仕組みを常に念頭に置くことが大切です。また、多様化する社会情勢の中、国や県からの交付金をあてにすることが困難になります。将来的に地域の自主独立と運営（必要最低の収益）を模索する必要があると思います。
-	男性	75 歳 以上	-	・ 総合病院。特養 100%稼働利用。高齢者の交通確保、アンケートを活用していない問題。